



令和2年度 学校だより 第17号

篠津原野に雲晴れて

3学期のスタートにあたり

校長 吉本 浩志

新しい年を迎え、皆様にはますます清栄のこととお喜び申し上げます。

記録的な降雪に見舞われながら始まった冬休みも終わり、年度を締めくくる学期がスタートしました。3年生は義務教育の集大成、1、2年生は進級に向けての助走期間になります。全ての子どもたちが、「約2ヶ月間の今学期は、次なるステージへ上がるための大切な期間である」ことを認識し、有意義に過ごしてほしいと考えています。

始業式の中では、子どもたちに次のことを話しました。

自信を深める3学期にしてほしい。

その実現のためにも、①自分で目標を立てること、②その達成に向けて努力を続けること、③頑張れた自分に対してはプラス評価をすることを心がけてください。「自分で自分をほめること」ができれば最高です。真っ白な雪原を一步一步踏みしめていくと、足跡が残

【教育目標】

ききびと
先人の熱いところを受け継いでふるさとに生きる力を育む

真理を探究する人
友情を大切にする人
創造し実践する人
健康で明朗な人

ります。その足跡こそが、皆さんの成長の証です。ゴール(目標)を目指して、最後まで足跡を付けてください。どんな足跡を残して春を迎えるのか楽しみにしています。

確かな歩みを目指す子どもたちを、私たちは全力でサポートしていきます。保護者の皆様には、変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い致します。

さて、今号では本校の「オンラインを活用した教育実践」を取り上げ、大きく報じられていた記事を載せました。北海道全域でも先進的な取り組みをしている学校の一つであると思っっています。このような実践ができるのは、「やってみよう」とポジティブに捉えることができる子どもや先生方、学校に対して常に理解を示し、協力を惜しまない保護者の皆様、子どもたちの学びのために、よりよい学習環境を整えてくださる本村の皆様。これら全ての条件が整い、実現できているのだと感じています。

今後、より利便性の高い通信環境(5G)で一人一台端末の導入を実現

してくださった本村への感謝を、新篠津の子どもたちの成長につながる教育実践という形で示すことができるよう努めていきます。

最後になりましたが、未だ終息の出口が見えないコロナ禍です。学校では、引き続き、安心・安全に最大限留意しながら、子どもたちの学びの保障に努めていきます。皆様もどうぞご自愛ください。

全道バドミントン新人大会

ベスト16に輝く!

北見市において1月10日、11日の日程で行われた全道バドミントン新人大会に本校の〇〇〇君・〇〇君がペアで出場し、見事ベスト16に輝きました。先に行われた石狩管内新人戦、札幌の順位戦で優勝しての出場権獲得です。対戦成績は、第1試合は北門中(旭川)ペアに快勝し、第2試合は砂

教員のチーム意識向上

臨時休業期間から先駆的实践

新篠津村立新篠津中学校(吉本浩志校長)は、新型コロナウイルス感染症の影響による昨年の臨時休業期間から、学習支援ソフトの利用やオンラインでの学級ミーティングなど、教育活動で積極的にICTを活用している。7月から道教委のオンライン学習導入モデル事業の指定校として実践を重ね、学習効果顕著な成果につなげている。取組を通じて教員のICT活用能力やチーム意識も向上し、一人一台端末の本格導入に向けて実践の成果・課題を整理し、さらなる有効活用のために活動を続けている。

新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休業となっていた3月、同校はウェビナー会議システムZoomの環境構築や試験運用を始めた。生徒と学校をつなぐことを目的に、週1回のオンラインによる学級ミーティングを行い、学校再開後は希望制のオンライン学習支援で個別指導を実施した。7月には道教委が定めるオンライン学習導入モデル事業の研究実践指定校に選定された。8月から4ヶ月間、家庭におけるオンライン学習支援を実施。3年生を対象に国語、理科、

1人1台端末本格導入見据え

オンライン学習導入実践校・新篠津中

英語科の4教科の家庭学習を支援した。取組の開始は、同校では教員も人と教員によるオンライン学習プロジェクトチームを編成し、「学習支援機能を強化し、生徒の学力向上や学習の質向上を目指すとオンライン学習支援の目的を明確にし、取組に対する教員の意識を高めた。また、臨時プロジェクトチームを開き、より多くの生徒が参加できるように多くの生徒が参加できる実施日の調整や指導計画の交流、オンライン学習の成果と課題の洗い出しなどを進めている。

端末など220台
本年度中に導入へ

新篠津村教委は、今年3月までに、村立小・中学校の児童生徒と教員にタブレット端末など情報機器220台と児童生徒用タブレットを導入する予定。

利用端末は、iPadを採用し、ネット環境が整っていない家庭でも問題なく受講を受けられるようにと、タブレットも活用した。児童を参考に、校外授業での端末使用も考えている。

